

史郎中欽と黃鶴樓上笛吹聴く

李

白

一たび遷客と為つて長沙に去る

西のかた長安を望めども家を見ず

黃鶴樓中玉笛を吹く

江城五月落梅花

【作者】李白(七〇一〜七六二年)盛唐の詩人。字は太白。自ら青蓮居士と号する。世に詩仙と称される。西域・隴西の成紀の人で、四川で育つ。

若くして諸国を漫遊し、後に出仕して、翰林供奉となるが高力士の讒言(ざんげん)に遭い、退けられる安史の乱では苦勞をし、後、永王が謀亂を起したのの際に際し、幕僚となつていたため、罪を得て夜郎にながされたが、やがて赦された。

【語釈】*史郎中欽:郎中の官位にある史(姓)欽(名)。*郎中:官名。*遷客:流罪に処せられた者。作者自身のことになる。

【通釈】ひとたび...となるやいなや、長沙に向かつて行つた。西の方を望み見るが、我が家を見ることは(でき)ない。

黃鶴樓で、美しい笛の音を聴いたが、川沿いの町の夏五月というのに「落梅花」という曲名であった。

【備考】郎中の官位にある史欽と黃鶴樓上で笛の音を聴いた。安祿山の乱の事後処理に関わつて、夜郎国(現・貴州省)に流されることになり、武昌

(現・湖北省武漢)に到つた時の作。